

感染症情報 7月1日～7日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

| | |
|----------|-----------------|
| ①手足口病 | 1,729例(堺市 123例) |
| ②感染性胃腸炎 | 923例(堺市 48例) |
| ③溶連菌感染症 | 462例(堺市 55例) |
| ④ヘルパンギーナ | 433例(堺市 38例) |
| ⑤伝染性紅斑 | 257例(堺市 30例) |

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

| | |
|---------|------------|
| インフルエンザ | 21例(堺市 1例) |
|---------|------------|

感染症報告数は前週比1.8%増の4,205件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順であった。

手足口病は府下で前週と比較して3%減、堺市は12%減であった。大阪府全ブロックで警報レベル開始基準5を超えている(府下の定点あたりは8.78)。感染性胃腸炎は府下で2%増、堺市では14%減であった。溶連菌感染症は府下で2%減、堺市で7%減となった。ヘルパンギーナは府下で17%増、堺市で35例→38例であった。伝染性紅斑は府下で7%増、堺市で28例→30例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。